

令和2年度

学校評価結果報告書
(年度末評価)



広島県立加計高等学校

目 次

- 1 令和2年度自己評価シート(年度末評価) (様式4) ……1
- 2 令和2年度自己評価シート(年度末評価まとめ) (様式5) ……3
- 3 令和2年度学校関係者評価シート(年度末評価) (様式7) ……4

令和2年度自己評価シート(年度末評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
1 生徒一人一人に生きる力を育む学校							
① 確かな学力を育成し、進路目標を実現できるよう支援する。							
■ 進路目標を明確にさせるとともに、基礎・基本を定着させ、進路目標を実現する。	進路実現率(%) (※10月進路検討会議段階での志望を基準とする)	83.3% (20名/24名)	85%	90.3%	A	2月末時点の進路決定者は31名中28名(未決定者3名)で、進路実現率90.3%となり、目標値を超えたため。	進路指導部
■ 学習環境を整え、自ら学ぶ意欲と学習習慣を身に付けさせる。	授業以外の1週間の学習時間(時間)	9.5	10以上	15	A	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、家庭で課題を行うことが増えたことや、自習室の利用者が増えたため。	教務部 各教科 各担任
② 心と体を鍛え「誠実・自主・気魄」を涵養する。							
■ 部活動や生徒会活動等における主体的な活動を通して、集団の中で責任ある自主的な行動をとる態度を育成する。	地域・学校のボランティアに自ら参加している生徒の割合(%)	76.3%	77%	62%	C	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ボランティア活動の多くが中止・縮小となる中、参加者数が目標を大きく下回ったため。	生徒育成部

【評価結果の分析】

- ・コロナ禍による臨時休業の遅れを取り戻すべく、探究学習や補習の充実とともに、生徒の資質・能力のアセスメント及び志望校とのマッチングを綿密に行って指導した成果である。とりわけ国公立大学総合型選抜・学校推薦型選抜で5名が合格したことは、一昨年(6名)に次ぎ近年では最高水準の成果を達成したといえる。一方、大学入学共通テストにおいては受験者の多くが実力を発揮できない結果となった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業時には、オンラインを活用した課題発信等を行い、生徒の学びを止めないよう取り組んだ。休業期間が約2か月と長期にわたったため、3年生では自身の進路実現に向け、少ない時間の中で不安もありながら学習を行ってきたため、学習時間が増えたと考えられる。1・2年生においても、自習室の利用者が大幅に増え、進路指導部や担任等の取組で進路実現意識が高まったこともあり、授業後の学習(放課後・帰宅後)を積極的に行うようになったため、学習時間が増えたと考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ほぼ地域参加へのボランティアは中止となった。校内でも天候不良やコロナ感染拡大対策として活動の縮小を余儀なくされ、活動の機運を高めることが非常に難しい状況であった。また、生徒自身も体調を考慮して活動を見送る傾向が強みられ、その結果、ボランティアへの参加人数が大幅に減少したものと考えられる。

【今後の改善方策】

- ・例年であれば模擬試験の公開会場受験などの「場数」を踏み、経験値を積ませる指導を行ってきたが、今年度はコロナ禍によりそれらの機会が全て失われてしまったことが要因と考えられる。中山間地の小規模校特有の視野の狭さや経験不足を補えるよう、公開会場での模擬試験や他校の受験生との交流などを企画・指導していく必要がある。
- ・オンラインを活用した課題発信等では、提出率も高く、家庭での学習の定着を感じさせる場面が多々あった。来年度は、1年生に一人1台のコンピュータを持たせることもあり、より一層オンラインを活用した課題配信等を行っていく。
- ・参加人数は減少したものの、ボランティア活動に対して特に1年生の生徒の多くは強い関心を持っており、活動内容としては、大きな成果を残すことができている。一番はコロナウイルスの収束であるが、状況的に次年度も厳しい状態が継続することが予想されるため、しばらくは生徒会を中心に参加しやすい校内の活動を呼びかけていきたい。

2 保護者・地域から信頼される学校

① 教職員の指導力や職務遂行能力の向上を図る。

■「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。	授業評価アンケートの平均値(4段階評価)	3.7	3.7	3.7	A	生徒が各学期末に行う授業評価アンケート結果より、目標値を達成できた。	教務部
-------------------------	----------------------	-----	-----	-----	---	------------------------------------	-----

② 教職員の不祥事防止、業務改善を図る。

■教職員の不祥事防止意識を高揚し、不祥事ゼロを継続するとともに、業務改善を図り職員の時間外勤務を減少させる。	超過勤務時間45時間／月以下の職員の割合(%)	59%	70%	67.2%	B	目標値を下回ったが、昨年度より、8ポイント改善できたため。	全職員
--	-------------------------	-----	-----	-------	---	-------------------------------	-----

【評価結果の分析】

- ・小規模校でありながら、国・数・英では、多展開授業(習熟度・少人数)が展開されており、生徒個人に応じた授業が展開できている。そのため、授業中でも質問がしやすい雰囲気がある。
- ・新たな取組に挑戦しながら、業務の簡素化を図る困難さはあるものの、話しやすい職員室で仕事を一人で抱え込まない土壌はできている。

【今後の改善方針】

- ・生徒の評価は目標を達成したものの、指導力向上のための職員研修等の機会が持っていない。期間を決め、教員相互の授業見学は行っているものの、専門性の高い研修等の機会が少ない。来年度、学校と地域の連携に詳しい外部指導者を招いての研修等を企画・実施する。
- ・今後も情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を堅持する。

3 地域とともに歩む学校

① 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

■地域協働を推進し、地域に貢献する人材を育成する。	「地域に貢献したい」と考える生徒の割合(%)	59.6%	65%	78.4%	A	総合的な探究の時間等において、地域を巻き込み、地域を考えた学習活動を行ってきたため。	教務部
---------------------------	------------------------	-------	-----	-------	---	--	-----

② 積極的な生徒募集を行う。

■積極的に広報活動を行い、学校の魅力を発信し、地域内外の生徒・保護者にとって「行きたい学校」「行かせたい学校」となる。	入学定員充足率(%)	100%	100%	72.5%	C	コロナ過の中で、できるだけ広報活動を行ったが、定員は確保できなかったため。	教務部 管理職
---	------------	------	------	-------	---	---------------------------------------	------------

【評価結果の分析】

- ・総合的な探究の時間やボランティア活動など、地域を巻き込んで行う活動を様々な場面で行ってきた。特に探究の時間では、昨年度より内容を一新した2年目ということもあり、より地域課題の解決等を考えた取組を行うことができた。
- ・コロナ過において、地元中学との連携行事等、対面での学校説明ができず、地元からの進学者が大幅に減少したため。

【今後の改善方針】

- ・本校コーディネーター(みらい株式会社)、地域商社、企画課とさらに連携を密にし、さらに地域課題の解決に向けた取組が展開できるようにしていく。
- ・コロナ過でもできる地元中学校との連携による取組、近隣校への訪問、HP及び地域みらい留学を通じての広報等を行う。

令和2年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	---

1 評価結果の分析

(1) 生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・コロナ禍による臨時休業の遅れを取り戻すべく、探究学習や補習の充実とともに、生徒の資質・能力のアセスメント及び志望校とのマッチングを綿密に行って指導した成果である。とりわけ国公立大学総合型選抜・学校推薦型選抜で5名が合格したことは、一昨年(6名)に次ぎ近年では最高水準の成果を達成したといえる。一方、大学入学共通テストにおいては受験者の多くが実力を発揮できない結果となった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業時には、オンラインを活用した課題発信等を行い、生徒の学びを止めないよう取り組んだ。休業期間が約2か月と長期にわたったため、3年生では自身の進路実現に向け、少ない時間の中で不安もありながら学習を行ってきたため、学習時間が増えたと考えられる。1・2年生においても、自習室の利用者が大幅に増え、進路指導部や担任等の取組で進路実現意識が高まったこともあり、授業後の学習(放課後・帰宅後)を積極的に行うようになったため、学習時間が増えたと考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ほぼ地域参加へのボランティアは中止となった。校内でも天候不良やコロナ感染拡大対策として活動の縮小を余儀なくされ、活動の機運を高めることが非常に難しい状況であった。また、生徒自身も体調を考慮して活動を見送る傾向が強くなり、その結果、ボランティアへの参加人数が大幅に減少したものと考えられる。

(2) 保護者・地域から信頼される学校

- ・小規模校でありながら、国・数・英では、多展開授業(習熟度・少人数)が展開されており、生徒個人に応じた授業が展開できている。そのため、授業中でも質問がしやすい雰囲気がある。
- ・新たな取組に挑戦しながら、業務の簡素化を図る困難さはあるものの、話しやすい職員室で仕事を一人で抱え込まない土壌はできている。

(3) 地域とともに歩む学校

- ・総合的な探究の時間やボランティア活動など、地域を巻き込んで行う活動を様々な場面で行ってきた。特に探究の時間では、昨年度より内容を一新した2年目ということもあり、より地域課題の解決等を考えた取組を行うことができた。
- ・コロナ禍において、地元中学との連携行事等、対面での学校説明ができず、地元からの進学者が大幅に減少したため。

2 今後の改善方策

(1) 生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・例年であれば模擬試験の公開会場受験などの「場数」を踏み、経験値を積ませる指導を行ってきたが、今年度はコロナ禍によりそれらの機会が全て失われてしまったことが要因と考えられる。中山間地の小規模校特有の視野の狭さや経験不足を補えるよう、公開会場での模擬試験や他校の受験生との交流などを企画・指導していく必要がある。
- ・オンラインを活用した課題発信等では、提出率も高く、家庭での学習の定着を感じさせる場面が多々あった。来年度は、1年生に一人1台のコンピュータを持たせることもあり、より一層オンラインを活用した課題配信等を行っていく。
- ・参加人数は減少したものの、ボランティア活動に対して特に1年生の生徒の多くは強い関心を持っており、活動内容としては、大きな成果を残すことができている。一番はコロナウイルスの収束であるが、状況的に次年度も厳しい状態が継続することが予想されるため、しばらくは生徒会を中心に参加しやすい校内の活動を呼びかけていきたい。

(2) 保護者・地域から信頼される学校

- ・生徒の評価は目標を達成したものの、指導力向上のための職員研修等の機会が持てていない。期間を決め、教員相互の授業見学は行っているものの、専門性の高い研修等の機会が少ない。来年度、学校と地域の連携に詳しい外部指導者を招いての研修等を企画・実施する。
- ・今後も情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を堅持する。

(3) 地域とともに歩む学校

- ・本校コーディネーター(みらい株式会社)、地域商社、企画課とさらに連携を密にし、さらに地域課題の解決に向けた取組が展開できるようにしていく。
- ・コロナ禍でもできる地元中学校との連携による取組、近隣校への訪問、HP及び地域みらい留学を通じての広報等を行う。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・学力向上及び進路実現については、引き続き少人数指導、習熟度学習及び個別受験指導などの取組により、進路希望を実現するよう取り組む。
- ・メディアやSNS等を活用したプロモーションを本格的に実施する。

令和2年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和3年3月17日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<p>明確で分かりやすい目標であり、達成したイメージを持つことができる。そのため、指標、計画の設定に連動して、目標達成のための取組を全教職員で共通イメージを持つことができる。</p> <p>計画についても具体的で取り組みやすい。</p> <p>学校の魅力向上に向けて適切な目標等の設定である。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<p>評価結果から、7項目中Cが2項目あるがコロナ渦の現状を適切にとらえており、妥当性があり評価も適正である。とりわけ生徒の自主性、企画力の向上が適切に評価されている。</p> <p>コロナ渦ではあったが、家庭で学習できるように工夫がなされ、十分な成果がでている。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<p>生徒の企画力の向上、進路目標の実現、国際交流、ボランティア活動等の取組は適切で、効果的である。とりわけ、みらい株式会社、地域商社、町企画課との連携が効果的である。</p> <p>家庭学習の定着は、小中学校も共通の課題であり、中学校でも加計高校の取組を踏まえ、改善に生かしたい。</p> <p>目標達成に向けて、具体的で有効な取組である。</p> <p>コロナ渦であったので、十分な取組ができずやむを得ない。</p>
評価結果の分析の適切さ	A	<p>評価結果の分析と生徒や学校の状況とよく合致しており、適切である。</p> <p>評価結果についての分析は適切に行われている。</p>
今後の改善方策の適切さ	B	<p>学力向上及び進路実現については、引き続き少人数指導、習熟度学習及び個別受験指導などの取組により、進路希望を実現するようお願いしたい。</p> <p>協調学習の研究授業の実施については、成果と課題を具体的に記述してほしい。</p> <p>地域貢献活動については、引き続き地道な活動を期待している。また、その姿は、小中学生の手本となる姿であり、地域の教育の向上にも貢献している。</p> <p>メディアやSNS等を活用したプロモーションが、今後主流となるので、その対応が必要である。</p> <p>問題点を分析し、今後の改善が期待できる。</p>
総合評価	A	<p>教育目標と目指す生徒像に、今の加計高校生が自ら近付こうとしている。それを支える教職員の組織力を感じることができる。</p> <p>進路実現、生徒の自主活動、地域貢献などの取組の成果が現れている。</p> <p>コロナ渦であっても課題をしっかりと把握し特色ある学校運営を目指し、努力しておられる様子が十分理解できる。</p>